

横浜市立 南台小学校 学校評価報告書 (令和元～3年度)

重点取組分野	令和元年度		総合	重点取組分野	令和2年度		総合	重点取組分野	令和3年度		総合	
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果		
豊かな心	①道徳的価値について自分事として考えたり、話し合ったりすることで、理解を深めるような道徳科の授業の充実を図る。②たてわり班での活動を毎月設定し、様々な人との豊かなかかわり合いを通して、相手の方を尊重し、思いやりが深まるように生きていくことを育てていく。	②今年度よりスタートしたたてわり活動では、学年を超えた子ども同士とのつながりが広がって見られるとともに、6年生のリーダー性をはじめ、各学年がそれぞれに応じた役割を果たそうとする姿勢が育てきていると評価できる。	A	豊かな心	①たてわり活動では、各学年の役割を意識して活動内容を計画したり、指導や支援を行っていた。また、たてわり活動と他の行事との連携を明確にし、2学期行事や60周年記念事業に向けた取組を工夫し、様々な人と目標を共有し、主体的・協働的に取り組む中で、他者を思いやる心を育てる。	コロナ禍により、異学年交流はたてわり活動でしか、べつ学年として、1年生と2年生の交流を軸に活動を行った。感染症対策と年齢を問わず、できる方法を模索し、お互いの存在を大切に思う気持ちを育てることができた。	B	豊かな心	①学校生活全般を通して、一人一人のよさを認め、自己肯定感を高め、だれかが安心して豊かに楽しく生活できるような学校をめざす。②学校行事や周年行事を通して、主体性を引き出し、協働するのすばらしさを実感させ、他者を思いやる心を育てる。	①アンケート等、子ども達の様子を教職員全体で周知することで、自己肯定感を高め、だれかが安心して豊かに楽しく生活できるような学校をめざす。②学校行事や周年行事を通して、主体性を引き出し、協働するのすばらしさを実感させ、他者を思いやる心を育てる。	E	
生きてはたらく	①朝モジュール学習やチームテッチング、少人数授業等を効果的に取り入れ、基礎・基本の定着を図る。②生活科・総合的な学習の時間を中心に重点取組に取り組み、主体的に問題解決していく力を育成する。③学校行事を見直し、各活動で育てたい力を系統的に考えた年間計画を作成する。	②子どもたちが自分の気持ちや考えを表現し、学び合う姿が見られた。基礎的・基本的な知識・技能の習得と定着については、個人・数も大きく、子ども一人ひとりの学習状況についていかに把握し、個に応じた指導の充実を図っていく必要がある。③育てたい力を元にした学校行事の見直しを図る。	B	生きてはたらく	①朝モジュール学習の計画的な実施や少人数授業やチームテッチング等の効果的な場面を吟味した計画的な実施により、基礎・基本の定着を図る。②重点取組を中心に、子どもたちが主体的に問題解決に取り組みむことをともに、同じように他教科でも資質・能力を育てることを意識した力強い授業の作成や授業改善を図る。	2か月の臨時休校を受け、年間指導計画の見直しを行い、育てたい資質・能力に応じた指導の重点化を図った。また、教材研究の充実、指導方法の工夫等による効果的な指導を進め、児童の学習保障を図ることができた。	B	生きてはたらく	①朝モジュール学習や少人数指導の計画的な実施により、基礎・基本の定着を図る。②主体的に問題解決に取り組む力や資質・能力を育てるために、国語科重点研究を中心に、どの教科もカリキュラムの作成や授業改善を図る。	①朝モジュール学習や少人数指導の計画的な実施により、基礎・基本の定着を図る。②主体的に問題解決に取り組む力や資質・能力を育てるために、国語科重点研究を中心に、どの教科もカリキュラムの作成や授業改善を図る。	E	
健やかな体	①体育学習の充実に加え、休み時間を利用した運動時間等の取組を通して、体を動かすことの喜びや楽しさを知り、生活の中にも運動を取り入れるようとする態度を養う。②学校保健委員会の活動などを通して、子どもたち自ら健康に過ごすためにできることを考えたり実践したりする力を養う。	①具体的な取組を通して、子どもたちは健康への関心が高まり、積極的に体を動かそうとする児童が多くなっている。②学校保健委員会の取組が、健康を維持するための日常的な取組の啓発や実践、振り返りがなされ、子どもたちの理解が深まった。	A	健やかな体	①体育学習の充実や休み時間を利用した運動への取組を進め、子どもたちの運動への意識と意欲を高めた。②子どもたちが基本的な生活習慣を身に付けられるようになるとともに、病気やけがの予防等に向けた環境の改善、各学年に応じた具体的な指導を継続的に進める。	感染症対策に関わる取組を中心にこの指導を通して、基本的な生活習慣を定着を図ることができた。また、活動の内容は制限しながらも、児童が進んで体を動かしたり運動することの喜びを感じられるような環境づくりを行った。	B	健やかな体	①感染症対策を講じ、体育学習や休み時間を通して運動の充実を図り、身体を動かすことや健康な生活のよさ、大切さにつれ、運動への意識と意欲を高めた。②基本的な生活習慣の定着とともに、病気やけがの予防、感染症対策等に向けた環境改善や具体的な指導を進めた。	①感染症対策を講じ、体育学習や休み時間を通して運動の充実を図り、身体を動かすことや健康な生活のよさ、大切さにつれ、運動への意識と意欲を高めた。②基本的な生活習慣の定着や病気やけがの予防、感染症対策等に向けた環境改善や具体的な指導を進めた。	A	
特別支援教育	①特別支援教育にかかわる職員の情報交換を職員が共有し連携を深め、特別支援教育の充実を図る。②職員研修を通して特別支援教育に関する理解を深め、学習環境や授業についてのユニバーサルデザインを推進する。	①特別支援教室や特別支援教育支援員による支援の充実を図ってきた。保護者への理解が進み、児童や保護者のニーズが高まる一方、時間や支援員の確保などが課題となっている。	A	特別支援教育	①特別支援教室の充実を図る一方、人的配置を行うとともに、担任、専任、指導者の一層の連携を進め、児童や保護者のニーズが高まる一方、時間や支援員の確保などが課題となっている。ユニバーサルデザインを推進する。	特別支援教室へのニーズが高まってきたを受け、受け入れ態勢を強化することで、学習において特別な支援を要する児童の学びへの意欲を高めたり、学力の向上を図りやすくなることになった。	B	特別支援教育	①特別支援教室の充実を図る一方、人的配置を行うとともに、担任、専任、指導者の一層の連携を進め、児童や保護者のニーズが高まる一方、時間や支援員の確保などが課題となっている。ユニバーサルデザインを推進する。	①特別支援教室へのニーズが高まってきたを受け、受け入れ態勢を強化することで、学習において特別な支援を要する児童の学びへの意欲を高めたり、学力の向上を図りやすくなることになった。	A	
児童生徒指導	①「当たり前3か条」について学校と家庭が共通理解を図りながら児童指導を推進する。②職員会議内で児童指導の意見を交換し、全職員で児童の状況や指導の方針について共通理解を図る。	①校内では進んで挨拶をする児童も多く見られるが、見守りの方々にきこえたり挨拶がでないという声もよく聞かれる。時と場合に応じた挨拶ができるよう、具体的な継続的な指導を進める必要がある。②定期的な時間設定により、児童理解や課題の共有が図られ、指導に生かされている。	B	児童生徒指導	①「当たり前3か条」について学校と家庭が共通理解を図りながら児童指導を推進する。特に「あいさつ」については、あらためて教職員の意識を高め、学校全体で具体的な指導を行っていく。②チャイムのあり方を見直し、子どもたちが自ら時間を意識して行動できるようにする。③児童理解について継続的な取り組みを進める。	あいさつの指導について、各クラスで目標を決めたり、それを全校に紹介し合ったりすることで児童の意欲を高めていく。児童会を中心としたあいさつ運動を実施することで、児童一人ひとりの意識を高めてきた。その結果、積極的な気持ちのよいあいさつをする児童が増えた。	A	児童生徒指導	①「学校のきまり」について学校・家庭が共通理解を図りながら、児童指導を推進する。児童理解や保護者の意見交換の場を設定し、職員全体で指導にあたる。②あいさつ運動を継続して行い、児童同士や地域のかかわりを通して、他者とのかかわりや深い理解を進める。	①「学校のきまり」について学校・家庭が共通理解を図りながら、児童指導を推進する。児童理解や保護者の意見交換の場を設定し、職員全体で指導にあたる。②あいさつ運動を継続して行い、児童同士や地域のかかわりを通して、他者とのかかわりや深い理解を進める。	E	
地域連携	①学校評価を見直し、児童や保護者、地域の思いを受け止めたり次の活動に生かしたりすることができるよう取り組む。②ホームページや学校だより等を活用し、教育活動の情報を積極的に発信して保護者や地域の方と協力を得られるようにする。	①行事ごとに保護者や地域向けのアンケートを実施し、適宜、振り返りや改善点を整理することができ、次の活動に生かすことができた。②子供たちの日常の姿、具体的な取組の様子などを生かして保護者や地域の方と協力を得られるよう工夫している。	B	地域連携	①学校評価を見直し、児童や保護者、地域の思いを受け止めたり次の活動に生かしたりすることができるよう取り組む。②ホームページや学校だより等を活用し、教育活動の情報を積極的に発信して保護者や地域の方々の理解や協力を得られるようにする。	保護者や地域の方々に生かされたいだけ、児童の姿を見ていただき機会を十分とすることができなかった。懇談会や学校ホームページ、学校だより等を活用し、より多くの情報を発信するよう努めた。また、入学説明会を学校YouTubeで配信するなど、新たな情報発信の仕方を模索している。	B	地域連携	①学校評価を見直し、児童や保護者、地域の思いを受け止めたり次の活動に生かしたりすることができるよう取り組む。②ホームページや学校だより等を活用し、教育活動の情報を積極的に発信して保護者や地域の方々の理解や協力を得られるようにする。	①学校評価については、教職員全体で情報を受け止め、よりよい活動につなげていく。②参観の機会が減ってきているため、ホームページや学校だより等で児童の様子を積極的に紹介していく。入学説明会をYouTube配信したところ好評だった。	E	
自分づくり	①地域行事に協力したり児童や職員が積極的に参加できるようにする。②生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域で体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者とのかかわりを通して一人ひとりの自尊感情を高めるようにする。	①生活科や総合的な学習の時間において、様々な地域の方々や施設、機関と積極的に関わって学ぶ場を取り入れることで、子どもたちは身近な人や人とのかかわりを通して地域を見つめたり大切に思ったりする気持ちを高めることができた。	A	自分づくり	①生活科や総合的な学習の時間において、地域の方と関わり、体験的に学ぶための機会を積極的に設け、地域を愛する気持ちや参画する意識、協働性を育む。②様々な人との関わりの中で学ぶ場を大切にすることで、他者や自己を意識したり理解したりすることができるようになる。	生活科や総合的な学習の時間を中心とした重点研究では、広く地域の方と関わる活動は縮小を余儀なくされたが、学校内では、身近な人や人とのかかわりを中心に学習に取り組み、改めて学校や地域を見つめたり、大切に思ったりする気持ちを育てることができた。	B	自分づくり	①国語科を中心とした指導により、自分の思いや考えをもち、それを言葉でわかりやすく表現して豊かに伝え合う力を育む。②様々な人との関わりの中で学ぶ場を大切にすることで、他者や自己を意識したり理解したりすることができるようにする。	①国語科を中心とした指導により、自分の思いや考えをもち、それを言葉でわかりやすく表現して豊かに伝え合う力を育む。②様々な人との関わりの中で学ぶ場を大切にすることで、他者や自己を意識したり理解したりすることができるようにする。	E	
安全管理	①危機管理マニュアルを常に見直しながら、事件・事故や災害発生時に適切に対応ができるように、職員研修や訓練等の充実と保護者への周知を図る。②学校施設の安全、維持管理のために1日1回の点検と改善を行う。	①安全な施設、設備の維持・管理を進めるとともに、日ごろの危機管理意識や警報や注意報発令時の対応の見直しを随時行ってきた。また、児童の登下校時等の見守りを強化し、より多くの方より見守りを進めるための学援隊の発足準備を進めた。	A	安全管理	①危機管理マニュアルを常に見直しながら、事件・事故や災害発生時に適切に対応ができるように、職員研修や訓練等の充実と保護者への周知を図る。②防火や防災、交通安全等について、計画的かつ継続的に各学年に応じた具体的な指導を行う。	学援隊が発足し、見守りに参加も出してくださる方も増えており、児童の見守り活動の充実を進めることができた。また、西門に電子錠とインターホンを取り付け、児童登校後の施設を徹底するとともに、昇降口を閉じた状態にするようにし、防火への取組を進めた。	B	安全管理	①事件・事故や災害時に適切に対応できるよう、より身近に近い形式での職員研修や、反省を生かした避難訓練を行い、意識を高めた。②様々な災害に対する基本的な訓練での指導を通して、安全について考える機会を設け、臨機応変に対応できるように考える指導をした。	①事件・事故や災害時に適切に対応できるよう、より身近に近い形式での職員研修や、反省を生かした避難訓練を行い、意識を高めた。②様々な災害に対する基本的な訓練での指導を通して、安全について考える機会を設け、臨機応変に対応できるように考える指導をした。	E	
いじめへの対応	①毎月の職員会議で児童指導上の情報を全職員で共有するとともに、2年2回のアンケートを実施し、いじめの未然防止と早期対応に努める。②1月1回いじめ防止対策委員会を実施し、全職員に向けていじめ防止に向けた意識を高めるとともに、認知された案件の経過確認を行い再発防止に努める。	①児童指導上の情報を定期的かつ必要に応じて適宜、場を設けて共有することで、いじめやいじめにつながる事象への早期発見、早期対応に積極的に取り組んだ。②児童アンケートだけでなく、日々の子供たちの様子に注意深く見守り、いじめの芽を摘み取る職員と意欲とスキルを磨きながら取り組んでいる。	B	いじめへの対応	①毎月の職員会議で児童指導上の情報を全職員で共有するとともに、2年2回のアンケートを実施し、いじめの未然防止と早期対応に努める。②1月1回いじめ防止対策委員会を実施し、全職員に向けていじめ防止に向けた意識を高めるとともに、認知された案件の経過確認を行い再発防止に努める。	児童指導上の情報を定期的かつ時間と時間をとって共有することで、全職員が共通意識をもたせ、組織的に対応することができた。また、今年度はコロナ禍に関わる児童のストレスやトラブル等について指導の場を多めたり、常に留意しながら指導を進められたように、いじめの未然防止に努めている。	A	いじめへの対応	①職員会議での児童理解やいじめ防止委員会の実施で、情報共有が共有し、いじめの早期解決・再発防止体制作りを推進する。②専任と教職員の連絡を密にし、いじめや問題行動の兆候を早期に察知し、適切に対応できるよう体制づくりができた。アンケート結果からわかるように、児童の様子を把握できるようになった。	①職員会議での児童理解やいじめ防止委員会の実施で、情報共有が共有し、いじめの早期解決・再発防止体制作りを推進する。②専任と教職員の連絡を密にし、いじめや問題行動の兆候を早期に察知し、適切に対応できるよう体制づくりができた。アンケート結果からわかるように、児童の様子を把握できるようになった。	A	
人材育成・組織運営(働き方改革)	①5年次以上の教職員を中心にメンターチームを組織し、日々の指導における必要感に基づいた研修を行い指導力の向上を図る。②6年次以上の教職員がメンターチームの指導にかかわることでもリーダーの育成を進める。③情報端末機器の活用により情報を共有し会議時間の短縮を図るとともに、学校評価アンケートに電子申請やメール配	①メンターチームの計画的な実施と内容の充実が図られ、日々の指導に生かすことができた。②6年次以上の教職員による学習の意欲の高まりに対する不安や更なる授業改善を期待する声も多く、学年間での連携、研修・研究の充実を図り、指導力の向上を目指す。③保護者や向上アンケートの活用を進め、回答率の向上と集計作業の効率化を図る。	B	人材育成・組織運営(働き方改革)	①5年次以上の教職員を中心にメンターチームを組織し、日々の指導における必要感に基づいた研修を行い指導力の向上を図る。②6年次以上の教職員がメンターチームの指導にかかわることでもリーダーの育成を進める。③情報端末機器の活用により情報を共有し会議時間の短縮を図るとともに、学校評価アンケートに電子申請やメール配	児童指導上の情報を定期的かつ時間と時間をとって共有することで、全職員が共通意識をもたせ、組織的に対応することができた。また、今年度はコロナ禍に関わる児童のストレスやトラブル等について指導の場を多めたり、常に留意しながら指導を進められたように、いじめの未然防止に努めている。	A	人材育成・組織運営(働き方改革)	①メンターチームを通して5年次以上の教職員、日々の指導における必要感に基づいた研修を行い指導力の向上を図るとともに計画的に指導力向上を図る。②グループウェアの活用により情報共有や会議のあり方を見直しするとともに、電子申請やメール配信システムを積極活用して、事務の効率化を図る。	①メンターチームを通して5年次以上の教職員、日々の指導における必要感に基づいた研修を行い指導力の向上を図るとともに計画的に指導力向上を図る。②グループウェアの活用により情報共有や会議のあり方を見直しするとともに、電子申請やメール配信システムを積極活用して、事務の効率化を図る。	E	
ブロック内評価後の気持ち	ブロック内で共有した9年間育ててきた子ども達に基づき、ブロック内各々の主な行事についての情報を持ち寄り、それらのねらいや内容の系統性、統一性について話し合ってきた。これを受け、本年度からの本校における主な行事の見直しを図ることができた。また、ブロック授業研究会では、各教科に分かれた事後研究会を行い、それぞれ教科の視点から、どのように児童生徒の資質・能力の育成に迫るか意見を交換することができた。また、ブロック内で個別支援級の学習発表交流が実施され、それぞれの状況の共有と児童生徒の学びへの意欲付けが図られた。			ブロック内評価後の気持ち	小中での授業交流や部活動見学会等は実施できなかったが、中学校の様子をDVDの映像を通して紹介してもらったことで児童の安心感につながることができた。それらの感想を伝えることができた。また、昨年度までブロック内において、育てたい資質・能力についての共通理解を図ることができた。また、それに基づいて、各校で発達段階に合わせてきた指導を行ってきた。さらに、今年度より始まった「キャリアパスポート」の様式や活用方法について情報の共有、交換を図りながら連携して取り組むことができた。			ブロック内評価後の気持ち	小中交流の行事は授業交流やリーダーシップセッションなど、ほとんどできなかった。その中で各小中学校の児童会、生徒会を中心に交流の妨げについて意見交換を行い、成果を発表したものを「笹下中プロジェクトスルーム」でアップし、継続して共有することができた。制度のある中で前向きに工夫する取組を実践し、継続することで高いリーダー育成と充実が実現した。年度内に向けてプロジェクト目標や具体的な取組を見直すことができた。主体的に学びや活動に向かう姿勢を育成するために子ども達の居場所づくり環境づくりの必要性を確認できた。今後も連携を密にしていきたい。			
学校関係者評価	授業交流や個別級での発表交流等、小中が連携し交流を深めることでお互いにより良い効果がある。英語科の学習に向けて小中で協力を重ね、これらも連携した取組を考えていきたい。また、地域では、子どもたちにと「ふるさと」と思えるまちづくりに向けた活動が進められ、子どもたちの主体的な参加も増えている。一方、地域の高齢化が進み、従来行われてきた地域とのかかわりが難しくなっている側面もある。今後、新しい目線で学校と地域のかかわりや考えを深め、学校が必要である。また、学校の取組等の情報とともに、様々な災害への対応について、学校、PTA、地域がしっかりと情報を共有し、発信していくことが重要であ			学校関係者評価	まともにも歩む学校づくり懇話会メンバーに学校の今年度の教育活動への取組状況や学校評価アンケートの結果等を書面でお伝えした。		学校関係者評価	まともにも歩む学校づくり懇話会メンバーに学校の今年度の教育活動への取組状況や学校評価アンケートの結果等を書面でお伝えした。				
中期取組目標振り返り	学校や家庭、地域のよさや課題を考えながら、新たに「まともにも歩む学校づくり」を目指して取り組んでいく。学習面では、生活科や総合的な学習の時間を中心に、積極的に「まともにも歩む学校づくり」を推進し、主体的に学ぶ子どもたちの姿が見られるようになってきた。新たなつながりもできている。また、校内では、たてわり活動の導入により、子ども同士の豊かなかかわりやペースをつくることができた。今後、さらに工夫・改善しながら充実を図っていきたい。基礎・基本の定着については、引き続き課題として認識し、個に応じたいねいな指導を行っていく。			中期取組目標振り返り	コロナ禍により、教育活動は大きく影響を受けたが、これまで行われてきた活動を根本から見直す機会を受け止め、一つ一つの教育活動の在り方を検討しながら実施し努めてきた。大きな行事をはじめ、日々の授業においても、子どもたちの安全、安心を保障しつつ、育てたい資質・能力につながるよう取り組むことができた。本校が目指している豊かな人とのかかわりや体験的な活動を基本とした「まともにも歩む学校づくり」は、そのアプローチの仕方の見直しを課題として次年度に引き継いでいきたい。また、GIGAスクール構想に基づきICTの活用も子どもたちの資質・能力を育む重要なツールとして積極的に取り組んでい		中期取組目標振り返り	情報の共有を意識し、児童支援専任と担任を中心に、課題の共有を丁寧に行うことができた。SCやSSなど外部機関と丁寧な連携することで特別支援教室の運営方法を改善する一方で、一人ひとりの児童にしっかりと寄り添いながら、自尊感情を高め主体的に授業に参加できるように取り組んだ。養護教諭を中心に児童会活動などを通して、新型コロナウイルスに対する新しい生活様式を低学年児にもわかりやすく繰り返し示したことで、児童の健康に対する意識を向上させることができた。人を集めにくい状況下ではあったが、地元町会と児童会活動との連携を行うこともできた。		中期取組目標振り返り	情報の共有を意識し、児童支援専任と担任を中心に、課題の共有を丁寧に行うことができた。SCやSSなど外部機関と丁寧な連携することで特別支援教室の運営方法を改善する一方で、一人ひとりの児童にしっかりと寄り添いながら、自尊感情を高め主体的に授業に参加できるように取り組んだ。養護教諭を中心に児童会活動などを通して、新型コロナウイルスに対する新しい生活様式を低学年児にもわかりやすく繰り返し示したことで、児童の健康に対する意識を向上させることができた。人を集めにくい状況下ではあったが、地元町会と児童会活動との連携を行うこともできた。	

括

3

3

A

A

3

3

3

3

A

3

W  
1  
2  
3  
4

W

童